会津医療センターから こんにちは！

【１７】

外科学講座
教授　斎藤　拓朗

『「超高齢化」と向き合う』

おはようございます。具合はいかがですか？
私たちの１日は朝の病棟回診からはじまります。毎朝患者さんのお顔を拝見するたびに、「今日も１日しっかり働こう！」という気持ちになります。この積み重ねにより、外来では「手術して３年たちましたね」「５年になりますね」というお話もできるようになってきました。

外科は守備範囲が広く、竹重俊幸准教授は、がんの進行した患者さんの心と体の痛み・苦しみと向き合う緩和ケア科を、樋口光徳講師は肺がんをはじめとする呼吸器外科を、私は消化器外科を担当しています。呼吸器外科では肺がん、気胸、膿胸（のうきょう）などの病気に対する手術のみならず、最新の抗がん剤治療あるいは免疫療法に取り組んでいます。

消化器外科では食道・胃および肝臓・膵臓（すいぞう）・胆道のがんに対する外科治療と抗がん剤治療・免疫療法を組み合わせた治療法を行っています。胆石症や鼠径（そけい）ヘルニアなどのいわゆる良性疾患に対する手術にも力を注いでおり、痛みが少なく治療効果も高い腹腔（ふくくう）鏡下ヘルニア修復術も添田暢俊講師が中心となって行っています。緩和ケア科では竹重准教授のみならず看護と緩和ケアのスタッフが、外科治療あるいは薬物治療の早い段階から患者さんのお話を伺う機会を設けています。

２０２５年には、いわゆる団塊の世代が７５歳を超えて「後期高齢者」となり、日本全体で、国民の３人に１人が６５歳以上、５人に１人が７５歳以上という超高齢化を迎えます。年齢が高くなれば、患者さんの心と体の状態は個人差が大きくなるため、高齢の方々に若い人と同じように手術や、その他の治療をご提供するのが適切ではない場合もあります。

私たちは、一人一人の患者さんと向き合う中からその答えを探し出し、より良い医療を提供すべく取り組んでいます。栄養と運動によって、いかに健康寿命を保つか、について情報を提供する「出前講座」も実施しています。関心をお持ちの方はご連絡ください。